

一【天候】

一 鳶(とび)が鳴くと雨

鳶が空を舞いながら鳴く、また何かに止まって鳴くときは雨になる前兆です。

しかし、鳶が川の上を飛んでいて一声も鳴かないとき、特に丸く円を描いているときは、天氣が続くといわれています。



二 晩秋、木の葉が一度に

さあつと落ちるときは大雪

晩秋に林の中を散歩しているとき、木の葉が一枚一枚落ちるのをながめるのはなかなか風情があるものです。

しかし、風がないのに木の葉が一度にどつと落ちることがあります。その年は大雪になるといわれています。

三 夕鳩は晴れ、朝鳩は雨

夕方、鳩が鳴くときは天氣が良く、朝方鳴くときは、雨が降るといわれています。朝鳩鳴いたら、川越しするな、という諺があるくらいです。

四 道が乾くと雨

数日間、雨が降るでもなく晴れるでもない憂うつな日が続いていて、あるとき晴天が幾日も続いたときのように、道路が乾くことがあります。そんな場合にはどしや降りとなることが多い。

五 河原が乾くと雨

これは、道が乾いたのと同じ訳ですが、時には河水が一日のうちひどく減る場合も雨の前兆といわれています。

六 煙が地を這うと雨

焚き火をした煙が空にあがらないで、地を這う場合は雨が降り出すことが多いようです。そして、家の中が煙っていて、外になかなか煙が出ていかないときも雨の前兆と言われています。

